

D材有効利用検討会を開催！

【愛知森林管理事務所】2月20日、愛知森林管理事務所においてD材有効利用検討会を開催しました。川上からは素材生産事業者など7事業者、川中からは2回収事業者、川下からは今夏、バイオマス事業を稼働する1事業者の総勢26名が出席し意見交換を行いました。

国有林においても今次計画では多くの収穫量が見込まれ、その中にはD材も多く含まれています。こうした中、川下においてもバイオマス事業が既に本稼働しており、今年度においても豊橋市臨海部でサーラe パワー(株)(約22メガ)が稼働しようとしています。

愛知所としては、こうした川下と川上の動きをリンクさせ双方がウィン・ウインの関係を構築できないかとの思いで検討会を開催したところです。意見交換会では、川下最終使用者、川中D材回収業者、川上D材生産事業者からそれぞれ、コマを設けての意見出しを行いました。

川下からは「流域からより多くの原料を回収したい」、川中からは「回収可能な場所、車両が入れるか、中間土場は必要」、「双方の利害の一致」、川上からは「ヤードが狭く、D材で現場が動かなくなった」、「林道が狭く大量輸送ができない」、「D材のサイズは？材の古さは？」など多くの意見等が出されました。愛知所としては、D材の有効利用が川上から川下までの関係を構築できるよう、橋渡し役として取り組むこととしています。



検討会の様子

三峰川みらいフォーラムでニホンジカの被害対策を講演

【南信森林管理署】2月23日、伊那市高遠閣において、伊那市の市民団体「三峰川みらい会議」(織井秀夫代表)が主催する「三峰川フォーラム」が開催されました。

今回で19回目となるフォーラムは、有害鳥獣を学ぶ「ニホンジカによる食害」をテーマに行われ、当署の渡邊修森林技術指導官が「南信森林管理署の事業概要とニホンジカ対策について」と題して基調講演を行いました。

その後パネルディスカッションなどで食害や有害鳥獣の駆除等の現状について理解を深めました。パネルディスカッションには、参加者全員が参加し、地元猟友会高遠支部長からは、15年位前から急激にニホンジカが増え、銃猟捕獲では効果が上がらず、自分でワナを製作し、年間千頭以上も捕獲したことが報告されました。

参加者からは「南信森林管理署が地域と一体になって高山植物等の保護やパトロール、植生の復元から、ニホンジカ等による食害対策まで幅広く様々な取組をしていることを初めて知った。『ついで見回り・通報』で158頭も捕獲したことに驚いた。今後も継続して欲しい」といった声も聞かれました。

最後に、織井代表が「今までニホンジカの食害等への関心が薄かったが、食害状況や鳥獣対策の難しさを知ることができた。これを機会に地域の人たちと一緒に考えて、安全・安心な地域を作り上げていきたい」と締めくくりました。



講演する渡邊指導官